

第5章 【学習習慣形成の素地となる環境づくり（五者連携）】 実践例

学習習慣形成に地域学校協働活動を活用した取組

～南小国町 “きよら塾”～

地域住民に加えて、地元高校生のボランティア協力により、児童生徒にとって、良きロールモデルとなっている実践。基礎的・基本的事項の確実な習得を目指すとともに、新聞への投稿記事の作成等にも取り組んでいる。対話を中心とした学習形態、異世代との交流といった、普段とは異なる学習環境での活動が、学校における学ぶ意欲の向上につながっている。



【キャッチフレーズ】

「夢の実現をめざして」

【講座内容】

- 確かな学力を身に付ける（進路保障）
- 英会話 ○漢字 ○ことわざ
- 47都道府県の位置と記名習得
- 熊日読者ひろば（見出し付け、投稿）

【参加者】小学生～中学生

【指導補助】高校生



【新聞投稿～見出しは12文字で書く～】

「運動会を終えて」というテーマの作文に挑戦。小学校3年生もいましたが、「力を合わせ笑顔をとどける」「全力で臨み楽しんだ運動会」「ふだんとはちがった運動会」など、12文字の見出しをつけ、全員が書き上げることができました。



【英会話】

講師は、南小国町教育委員会が8年間開設した日本語教室「ことばのまなびや」の修了生で、地元小学校の保護者でもあります。

○小中学生と高校生との交流を通して、小中学生が高校生を尊敬したり、目標にしたりすることで、学習意欲や生活能力の向上につながっています。また、高校生にとっても、指導する喜びを味わったり、将来の進路を考えたりする良い機会になっています。

○地域の「ひと・もの・こと」を活用した教育活動を実施し、たくさんの人の関わりを通して「認められる」「ほめられる」などの経験を積み重ね、自己肯定感を高めています。